

寿町白山神社本殿 (寿町一丁目)

社伝によれば、武田信玄の家臣・山口長左衛門が建立した神社で、古くは喜多院の境内にありました。仙波東照宮の造営に伴い、現在地へ移されたと言えられます。本殿は、覆屋内の板床上に据えられた小型の一間社流造です。屋根はこけらぶきで、正面に軒唐破風を付けます。覆屋は高い切石積基壇上に建つ、二間四方の入母屋造妻入の建築です。覆屋内に安置することを想定したため、本殿は江戸彫を多用したち密な細工や木製の亀腹を用いるなど、工芸的な所が見られます。

身舎は、随所に彫刻が施されています。特に注目される彫刻は本殿の壁面と脇障子です。壁面は左が神功皇后と赤ん坊(応神天皇)を抱く武内宿禰、右が履物を差し出す張良と兵法書を授ける黄石公が描かれています。左脇障子には、中国の故事「二十四孝」のたけのこを掘る孟宗、右脇障子は「二十四孝」の黄金の釜を掘り出てる郭巨です。いずれの彫刻も人物が大きく、絵本に出てくるような柔らかい表情をしています。



寿町白山神社本殿

本殿は、覆屋に「天保十己亥歳十一月吉日/当社再建」と刻銘があるため、天保十年(一八三九)の造営と考えられますが、嘉永四年(一八五二)再建を記す棟札があつたとも伝えられています。昨年八月十日、市の指定文化財になりました。

世界の国から、こんにちは!



米国/小菅・ポビー・リーさん

ユタ州の出身です。砂漠が多く乾燥した土地なので、雨が降るとうれしくて、外で遊んでいたことを覚えています。雨が降ったときの、独特のにおいは今でも大好きです。

川越には24年住んでいます。自然と歴史が多く残っている川越をとっても気に入っています。子どもたちも近くの林で虫を捕ったり、菓子屋横丁に行ったりするのが大好きでした。友人が遊びに来ると、蔵造りの町並みなどを案内できるのもうれしいですね。これからも自然と歴史を大切にしてほしいと思います。

\*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは11ページ・13ページ・20ページ、相談は22ページをご覧ください。

国際交流課・TEL224-5506

どんぐり

編集後記

市民の皆さん、お正月はいかがお過ごしでしたか。毎年、私は年賀状を楽しみにしています。年賀状でしか連絡を取り交わさない旧友も、この数年間でだいぶ増えました。近況をつづった文面を読んで驚くこともしばしばあります。「昨年春に転職した」とか、「ミドルエイジを期してマラソンを始めた」とか、「新築した」など実にさまざま。そんな旧友の1人に、先日電話をかけてみました。数年来話したことがなかったのですが、すぐに意気投合し、しばらくぶりで会うことに。親交を深めるきっかけになるとは、1年に1度の年賀状をあらためて見直しました。▶年間に24回、各家庭に市からのお知らせなどをお届けしている広報川越。ことしも市民の皆さんと行政とをつなぐ橋渡し役を果たすために、日々精進していきます。(KI)